

札幌市環境教育基本方針改定に向けた市民ワークショップ

実施結果

実施概要

1 実施目的

札幌市環境計画基本方針の改定に向けて、市民から広く意見等を聞き取ること为目的としてワークショップを開催する。

2 実施日時

平成30年8月25日（土） 13：30～17：00（受付開始13：00～）

3 実施会場

北海道建設会館8階A会議室
（札幌市中央区北4条西3丁目1）

4 参加者数

38人

Aグループ5人・Bグループ5人・Cグループ5人・Dグループ4人・Eグループ5人・
Fグループ5人・Gグループ5人・Hグループ4人

実施概要

5 プログラム

時刻	項目	目安	内容
13:00	受付開始	30分	<ul style="list-style-type: none">・ 受付で名前確認→各テーブルへ案内・ テーブルごと謝礼支払いおよび押印をもらう
13:30	開会	5分	<ul style="list-style-type: none">・ 札幌市からあいさつおよび会議趣旨説明・ 司会から本日の流れを説明
13:35	情報提供	30分	<ul style="list-style-type: none">・ 札幌市から基本方針素案について説明 (PPTおよび配布資料)
14:05	意見交換①	40分	<ul style="list-style-type: none">・ ファシリテーターが進行 (テーブルごと)– 自己紹介– 話題①: これまでに参加した環境教育や環境学習について– 話題②: 学んだことについて実践しているか、実践していない場合はその理由
14:45	休憩	10分	<ul style="list-style-type: none">・ ファシリテーターは集合して状況共有
14:55	テーマ説明	10分	<ul style="list-style-type: none">・ 司会から【取り組みの柱】について再度説明→意見交換②に向けて
15:05	意見交換②	45分	<ul style="list-style-type: none">・ グループごとに【取り組みの柱】を意識しながら意見交換 (テーマを限定しない)
15:50	まとめと振り返り②	10分	<ul style="list-style-type: none">・ グループ内の意見について取りまとめ
16:00	グループ発表	20分	<ul style="list-style-type: none">・ ファシリテーターからグループ内の意見について代表発表 (持ち時間2~3分程度)
16:20	本日のまとめ	10分	<ul style="list-style-type: none">・ 有識者から、本日のまとめ
16:30	閉会		

Aグループのまとめ

テーマ	出された意見
【情報発信】 広報	<ul style="list-style-type: none"> 札幌市の広報誌やチカホ、地下鉄等の公共空間での広報は必要。 チカホで環境に係る商品販売等も有効と感じる。 ショッピングセンター等、多くの人が足を運びやすい場所、集まる場所でイベントを実施することが有効。 子どもと一緒に親も現地見学や企業の工業見学に参加して環境への配慮を学ぶ機会を創出し、その状況や体験の様子を多くの市民にフィードバックすることが有効と考えられる。 情報発信については、行政主体で発信し、情報の波及については、民間企業の知恵や手法を活用することが重要。 子どもや子育て世代の環境意識は高く、一方、環境意識が低いのは高齢者の父親世代と思われるため、そこに対するアプローチが重要。
【情報発信】 学校	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの環境意識はある程度高いと思われ、子どもを通じて、母親世代や祖父母世代の行動の変化に寄与すると思われる。 学校で配布されるプリントやエコチルのようなフリーペーパーは有効。
【情報発信】 若者	<ul style="list-style-type: none"> イメージキャラクターやマスコット（着ぐるみ）等があると良い。 若者はSNSの利用者が多いため、twitter等を活用した啓発活動は有効と感じる。 若者が興味・関心が高いプロスポーツと連携し、広報を実施することが有効と感じる。例えば、北海道日本ハムファイターズや北海道コンサドーレ札幌、レバンガ北海道等。
【情報発信】 イベント	<ul style="list-style-type: none"> 環境広場等の環境イベントについて、魅力ある内容にして、子ども連れの家族以外のカップルや高齢者も参加できるような企画とすることが必要と感じる。
【行動の後押し】	<ul style="list-style-type: none"> 冷蔵庫も比較的高価であることから、エコ商品への買い替えの補助等があると良い。
その他	<ul style="list-style-type: none"> 身の回りの生活用品については、環境に配慮した商品とそうでないものがあるため、学校で実験等を実施できるようにして、正しい知識を持って商品選択をできる人の育成につながると良い。 町内会レベルで展開することにより、住民が相互に取り組むことにつながる。 ビオトープについて、学校で学べる環境があると良い。 ごみ袋が不要となるごみステーションが作れると良い。 スーパーの冷房は強過ぎると思われ、環境に良くないと感じる。 マンション等が多い中で、生き物のお墓を作れない家庭も多いことから、学校等に作らせてもらえると助かる。 学校の熱中症対策を実施してほしい。

ワークショップ時のまとめ【Aグループ】



Bグループのまとめ

テーマ	出された意見
【低酸素社会の実現に関すること】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自転車レーンを普及していく。 ・ 札幌中心地域への自動車の乗り入れ禁止する。 ・ 車いす利用者にとって利用しやすい公共交通にすれば、みんなが利用しやすいユニバーサルデザインとなり、利用者が増える。
【学校等での推進】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校の教科に「環境」を追加する。 ・ 各保育所や幼稚園、小学校に環境についての絵本を設置する。 ・ 廃材を使った工作を教える指導員がいると良い。 ・ 夏でも、子どもが外で遊べる施設があると良い。 ・ 牛乳パックのリサイクルの工程を見学したことで、リサイクルの流れを知ることができ、環境への理解が深まった。 ・ 水道記念館等の施設には、子どもが遊べる場所があるので行く機会が多く、取り組み内容を知るきっかけとなっている。 → 環境に関する施設にも子どもの遊び場を作ると良い。
その他	<p>【行政への要望】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 中島公園にある湖の水を抜く作業に、市民の参加を可能にする。 ・ 全世帯対象に、電気を使わない時間を設ける。 ・ 今回のような市民向けワークショップの開催を増やす。 ・ 海外観光客向けに観光地でごみの分別の仕方など電光掲示板で紹介する。 ・ 会社で廃棄されるシュレッターのごみの再利用の方法の情報がほしい。 ・ 公共の場にある空き缶を入れるごみ箱に遊びを取り入れるようなデザインを施しゲーム感覚でごみを捨てられるようにする。 <p>【企業への要望】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 企業の環境への取り組みを学校での出前講座で紹介することで、親も知ることができる。 ・ 旅行会社が発行する観光情報誌に、ごみの分別の仕方等を記載する。 <p>【家庭での取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 家庭の中でリサイクルの方法を伝えることも大事（例：濡れた新聞紙を床にまき、掃き掃除をするとごみが取れやすい等）。 ・ 暑いときや寒いときなど、公共施設の中で過ごす。

ワークショップ時のまとめ【Bグループ】

Bグループ

◎ 低炭素社会を...

自給自足の
暮らしを
実現する
(週末)

カーシェア
の普及を
促進する

車-子-車
の活用を
促進する

◎ 学校で...

小学生に
環境学習
の授業を
行う

中学生
の環境学習
の授業を
行う

高校生
の環境学習
の授業を
行う

子ども
の環境学習
の授業を
行う

環境学習
の授業を
行う

環境学習
の授業を
行う

環境学習
の授業を
行う

環境学習
の授業を
行う

環境学習
の授業を
行う

◎ 行政が...

<遊び>

児童公園
の整備を
促進する

児童公園
の整備を
促進する

児童公園
の整備を
促進する

児童公園
の整備を
促進する

児童公園
の整備を
促進する

◎ 企業が...

<遊び>

児童公園
の整備を
促進する

児童公園
の整備を
促進する

<普及>

児童公園
の整備を
促進する

◎ 家庭で

児童公園
の整備を
促進する

児童公園
の整備を
促進する

Cグループのまとめ

テーマ	出された意見
<p>【場と機会の充実】 (学校)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高校・大学の現場でも環境教育の場を設ける。 ・ 座学で学ぶよりも体験をした方が記憶に残るので、学校教育の現場で体験学習を行う。 ・ 生き物との触れ合いの場を増やすため、学校でビオトープを増やしてはどうか。 ・ 外来種問題などを教えるため、授業の中で自然の多いところに出かける。 ・ カエルやトンボに触れ合う場を増やすため、田植え体験などを行う。 ・ 動物園での展示は充実しているので、動物園に行き、動物との触れ合いの場を設ける。 ・ しっかり身につけるために環境教育を受験科目にしてはどうか。
<p>【場と機会の充実】 (企業)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 企業のエアコンの設定温度が低くて寒いので、企業側にエアコンの設定温度について啓蒙する。 ・ 独身者は町内会にも入っておらず、ごみ出しのモラルが低いのが問題なので、企業が社員にモラル（道徳観）の教育を行うことで、環境の意識の低い独身・若者を教育してほしい。 ・ 特にごみ拾いなどは沿道の企業が率先して実施してほしい ・ スーパーや商業施設の商品は、プラやトレイなど荷重包装なので、包装紙などを簡易化する。 ・ 企業側にメリットが出てくるように、環境教育を実践しているところを表彰する。
<p>【場と機会の充実】 (家庭)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 洋服をリサイクルに出したり、エコバックを持ち歩きレジ袋をもらわないようにしたり、小さなことでもいいから家庭でできる取り組みを増やす。 ・ 高層の建物より低層の建物を増やした方が省エネなので、マンションの建築の制限をする。 ・ CO2排出を削減するため、マンションなどを建物緑化する。 ・ CO2排出を削減するために、極力車を使わないで移動するようにする。 ・ 家庭で省エネ・節電を実施する。 ・ 家庭でも手軽に参加できるようにする。
<p>【場と機会の充実】 (地域・町内会)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 町内会で実施するお祭りで木を配り、植樹する。 ・ リサイクル品でアート作品を展示する「リサイクルアートコンテスト」を開催する。 ・ 野菜の輸送コストを減らすためにも、地元野菜の消費を促すためのマルシェを開催する。 ・ 道の駅などで地元野菜を販売し、CO2の削減につながることをPRする。
<p>【場と機会の充実】 (行政)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 車を使わないようにするために、行政が指導力を発揮し、中心市街地への車の乗り入れの禁止をする。 ・ 自転車をもっと乗りやすい街にする。 ・ 市電で回るツアーを実施したり、バスの乗り方の勉強会を実施する。 ・ CO2排出量を減らしたら、税金を安くする制度を導入する。 ・ もっと安く各家庭で設備を導入できるように太陽光発電やペレットストーブなどの購入補助を増やす。 ・ 水素で走る車の購入費用を補助する。 ・ ノーマイカーデーを企業で実施するよう呼び掛ける。 ・ ペレットストーブを推進するため、ペレットストーブの体験会とペレットストーブの広報を行う。

Dグループのまとめ

テーマ	出された意見
<p>【循環型社会の実現に関すること】 (意識・教育)</p>	<p>【意識・教育】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大人の意識変容は困難である。 ・ 子どもはごみの分別をゲームのように楽しんでいる。 <ul style="list-style-type: none"> ⇒ 幼い頃から教育されている子どもにとっては、ごみの分別など環境への配慮に対するハードルは、低い。 ⇒ 幼少期からの教育が重要であり、専門の授業時間を確保すべきである。 ・ 環境問題に対して、100年後の未来を語られても当事者意識が芽生えない。 ・ 環境に良い取り組みを行わなくてもペナルティがない。実施しても利益がない。 ・ 環境に配慮した消費を行うには、家計への負担が大きい。 <ul style="list-style-type: none"> ⇒ 環境の取り組みは、利便性（利益）を確保し、自主的に実施する仕組みづくりが重要である。 ⇒ 環境問題やその対策・取り組みについて、不便であったり、分からないといった課題を解消する必要がある。
<p>【循環型社会の実現に関すること】 (協働)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 分別すべきごみの種類が多く、高齢者には困難。 <ul style="list-style-type: none"> ⇒ 分別しなければならぬ種類を減らすことで、分別を促進する。 ⇒ 町内会や近隣住民で高齢者のごみの分別を補助する仕組みを創出する。 ⇒ 宅配を行う物流業者が、資源ごみの回収を行う。
<p>【循環型社会の実現に関すること】 (組織の取り組み)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 簡易包装や弱冷房に取り組む企業が増えているが、少ない。 ・ マンションでは、住民組織でゴミ問題に取り組んでいる。 <ul style="list-style-type: none"> ⇒ 組織からの発信も重要である。
<p>【循環型社会の実現に関すること】 (情報発信)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 環境に関する情報だけでは、市民に届かない。 <ul style="list-style-type: none"> ⇒ 自動車利用の抑制・公共交通の利用促進と事故リスクなど、組み合わせによって発信することが重要。 ⇒ テレビCMだけでなく、情報発信を行う媒体を検討すべき。
<p>【低炭素社会の実現に関すること】 (FCV)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ F C Vに興味はあるが、価格が高く、購入しようと思わない。 ・ 現在の車種は、家族向けには利用しにくい。 <ul style="list-style-type: none"> ⇒ F C Vの低価格化、車種の増加が必要（利益・利便性）。

ワークショップ時のまとめ【Dグループ】

Dグループ

**課題
問題**

ゴミ

分別の
多し
(ゴミ)

プラスチック
ゴミ
郵便の増量

企業の
取り組みが
少ない

リサイクル
の割合
低分

分別の
しにくい

ゴミ収集
コストの
上昇

分別の
しにくい

学校で
教える
機会が少ない

意識

大人は
突然
変わる

分別の
仕組みが
教える
機会が少ない

授業の
時間を
確保する

発信

政府や
行政による
企業への
呼びかけ

マンション
の問題
共有

自治体の
ネットワーク

自治体
の取り組み
が少ない

組織
への
発信が
重要

環境への
取り組みは
自主的
利用が
不便
だから
自治体
の
発信

今後

ゴミ

高冷着
分別

分別の
種類を
減らす

分別の
お手伝い

物流業者
への回収
依頼

発信

情報
発信
層が
多い

環境+
何の
情報

事故
あり
なし
要因
分析

興味
を持たせ

発信の
条件を
再検討

意識・行動

自動車
利用

意識
を変える

FCVの
普及
低価格化

FCVの
種類を
増やす

実感
がない

インセン
ティブ
がない

利益が
必要
な場合
は
有料化

ポイント
付与

企業側
が必要

エコ
マーク
は
知らない

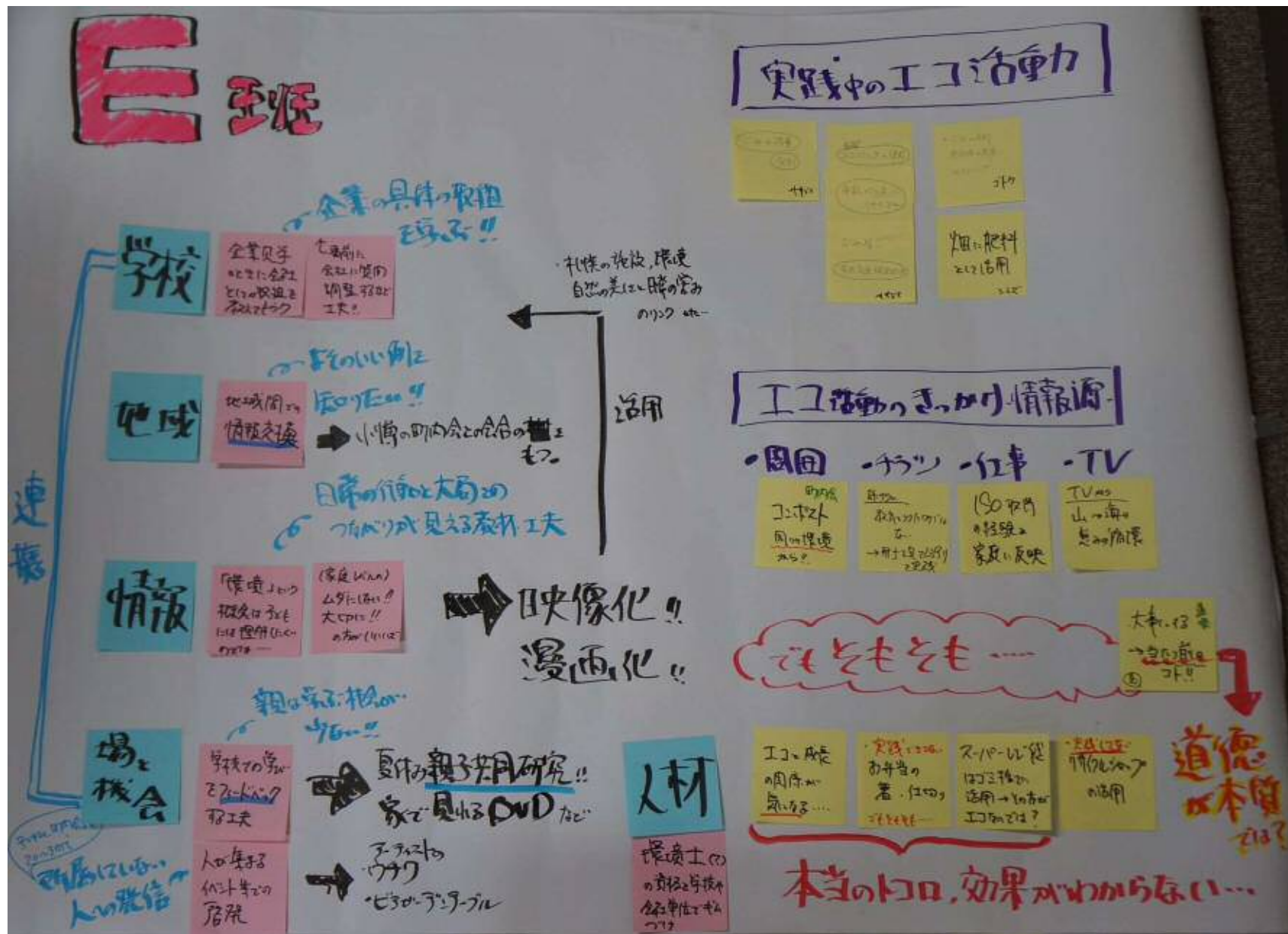
商品の
魅力が
重要

実感への
負担
大

Eグループのまとめ

テーマ	出された意見
【学校等での推進】	<ul style="list-style-type: none"> ISOの認定などを通じて環境に関する取り組みを行っている企業も多い。そのような企業の具体的な取り組みを学ぶことが重要。そのために、小学校の課外活動を活用する（事前に質問事項などを企業と調整した上で訪問するなど）。
【環境人材の育成】	<ul style="list-style-type: none"> 「環境士」のような資格があれば、その取得を学校や企業単位で義務付ける（各企業一人以上など）ことで、環境人材の増加が期待できる。
【場と機会の充実】	<ul style="list-style-type: none"> 他の地域の取り組みを知るために地域間の情報交換の機会があると良い（例：小樽市の町内会との会合を持つなど） 親世代は学ぶ機会が少ないので、子どもが学校で学んだことを家庭にフィードバックする工夫が必要。（例：夏休み親子共同研究／家族で見れるDVDなど）。 子どもがいない、町内会に所属していない層（20～30代）への発信として、人が集まる場所、イベント等での啓発活動も重要（例：ビアガーデンのテーブル、ライブのときのうちわなど）。
【情報発信と後押し】	<ul style="list-style-type: none"> 「環境」という概念は子どもには理解しにくいのではないか。 家庭レベルでの「ものを無駄にしない。大切に使う」といった基本的な教えが重要。 日常の行動と、地球環境という大局とのつながりが見える教材として、映像化、漫画化といった工夫が必要（例：札幌の環境に関わる施設や、自然の美しさ、日常・生活の営みなどの関連が分かるもの）。
その他	<ul style="list-style-type: none"> そもそも、「環境を大事にする、モノを大切に使う」というのは「当たり前」のこと。 その「当たり前のこと」は環境教育というより、道徳の粋だと思う。 エコと経済成長との関連、普段やっているエコ活動の効果の是非など、大きいことから小さいことまで、本当のところ分からない。

ワークショップ時のまとめ【Eグループ】



Fグループのまとめ

テーマ	出された意見
【学校等での推進】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教育内容のコンセプト（柱）を分かりやすい表現にした方が子どもたちは興味を持ちやすいのではないかと。 ・ 「低炭素社会の実現」では表現も分かりにくく、そもそもCO₂の排出軽減という取り組みも目に見えにくく分かりにくい。「エネルギーの無駄遣いを止めよう」を入口にした方が分かりやすいし、一人一人が取り組みやすいのでは。 ・ 「自然共生」という表現も分かりにくい。生物多様性や固有種保護などさまざまなテーマはあるが、では外来種は殺して良いのか、という複雑なテーマもある。動植物の住み良い環境づくりとして、水質保全やごみ拾い活動などといったシンプルで横断性のある取り組みにつながる内容を取り扱った方が興味と継続につながるのでは。 ・ これらのテーマや課題については、当然子どもの成長過程に合わせて進めていくべきであり、学年や小中高などのステージごとにどのような教育のゴールがあるのか、といった指針も基本方針の中に盛り込んで良いのでは。
【情報発信】 (ターゲット設定)	<p><ターゲット：親></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもへの教育は学校などの場があるが、親の意識が低いと取り組みの継続は困難。 ・ 親と子が一緒になって考えていける場の創出が必要。 <ul style="list-style-type: none"> ⇒ TV番組での情報共有を行えば、家庭で親と子が一緒の時間として共有できるので好ましい。 ⇒ 回覧板などでの情報展開も、情報が家庭内に入り込むので好ましい。 <p><ターゲット：興味のない人></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 環境保全等に興味のある人は、自ら情報を収集したり、何気なく展開されている情報も拾うことができる。 ・ 問題は興味のない人にどのように情報を提供するか、どのような学習の場を提供するかという視点だと思う。 <ul style="list-style-type: none"> ⇒ まずはどのような属性の人が環境活動への興味が薄いのか、というベースの調査を行い、効果的・効率的な環境学習の場づくり、環境教育を実践を図っていくことが求められているはず。
【情報発信】 (興味・関心の向上)	<ul style="list-style-type: none"> ・ ターゲットごとに適切な媒体で、かつ適切な内容の情報発信を行うことが、興味・関心を向上させることにつながる。 <ul style="list-style-type: none"> ⇒ 自動車運転者：カーラジオ ⇒ 高齢層：町内会や老人会での情報発信、病院でのポスター掲示、新聞やチラシ ⇒ 若年層～壮年層：TV、インターネット、フェイスブック、LINEなど ⇒ 10～20代：Instagram、TikTok、Twitterなど ・ 発信力のある有名人等の活用も好ましい（芸能人、市長、など） ・ 環境活動をすることの明確なメリットをつくる。 <ul style="list-style-type: none"> ⇒ 環境活動ポイント、税金が安くなる、など。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ 活動団体の窓口を明確にする。 ・ 環境活動の報告の場をつくる。 ・ 興味のある人が活動団体に参加しやすい仕組みをつくる。 <ul style="list-style-type: none"> → グループの見える化

Gグループのまとめー場と機会の充実

テーマ	出された意見
<p>【場と機会の充実】</p> <p>【健康で安全な環境の確保】</p>	<p><どこで学ぶか></p> <ul style="list-style-type: none"> 環境の実態を知る機会が少ない。 教育は早く始める方が良い（早い方が良い）。 教育の場は幼稚園（保育所）、学校、そして家庭。 家庭では子どもの教育の一つとして教える、そして家庭は実践の場。 学校では環境に関する知識を学ぶ（それを家庭で実践する）。 <p><何を学ぶか></p> <ul style="list-style-type: none"> 環境学習の場としては藻岩の浄水場やごみ処理場の見学も興味を湧かせる場所なので活用した方がいい。 さらに親の仕事を通じて子どもに聞かせ、教えていく方法もある（見学もいいと思う）。 エネルギーができる所から環境へ返すところまで。 時間軸に沿って教えることも必要（このまま環境が傷つけば、未来がどうなってしまうのか）。 <p><誰が教えるか></p> <ul style="list-style-type: none"> 学校の先生 企業の専門家 家庭 学ぶ内容は環境を使って経済活動をする企業等が連携して、子どもに教えたい内容を考え、教育行政を担う自治体にフィードバックする。 それを学校で教え、家庭で実践する（知識と行動）。 学ぶ内容を共有するためには、間に調整役としてNPO等が入っても良い。 家庭教育を支援するNPOにも期待している。
<p>【場と機会の充実】</p> <p>【循環型社会の実現】</p>	<p><どこで学ぶか></p> <ul style="list-style-type: none"> 家庭（実践の場） 幼少期からの働き掛け <p><何を学ぶか></p> <ul style="list-style-type: none"> ごみ分別収集のルート（ごみから資源に戻るまでの道筋）を理解できるような家庭と学校との協働で教育をする。 自然と共生できる社会 この場合も工場見学などを取り入れても良い <p><誰が教えるか></p> <ul style="list-style-type: none"> 学校（小さいときから学び実行できるように） エネルギー資源を使う会社が国や地方公共団体に働き掛け、本当の将来の姿を説明することも必要。 環境の専門家が入ることも必要（親と教師も学ぶ必要がある）。

Hグループのまとめ

テーマ	出された意見
<p>【学校等での推進】</p> <p>【健康で安全な環境】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 災害時の注意喚起として「大雨のときに川のそばに行かないように」というだけでは、足りないように思う。増水時は川の淵でなくでも危険。もっと具体的に指示しなければいけない（夏の川遊びも）。
<p>【学校等での推進】</p> <p>【低炭素社会の実現】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ クーラーやアイドリング等が問題だと言われても、温暖化は地球規模の話であり、影響がどれほどなのか分かりにくい。 ・ 身近な例で具体的に示す（クーラーの設定温度を1℃上げると、パチンコ屋さんを1時間早く閉店すると、どのような効果がある）。 → 子どもから親へ伝えるまでを過程とする。
<p>【学校等での推進】</p> <p>【循環型社会の実現】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ コンクリート再生など普段目にしないようなリサイクル現場に行く。環境教育施設を作らなくても学ぶ場はたくさんある。 ・ 江戸時代の生活はどうしていたかをテーマに子どもの発想で想像して発表する。専門家の意見をもらったり、参観日にすると盛り上がる。
<p>【学校等での推進】</p> <p>【自然共生社会の実現】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 共生の本当の意味を教えなければならない（餌付けしたりすることではない）。 ・ 共生の例として、シカ用通路やトンネルがあり、そのような場を教材にそれぞれの生態系を壊さない、過干渉しないという共生の仕方を示す。 ・ 植樹だけではなく、枝払い、雑草抜きを行い、木の生育環境を知ってもらう。 ・ 野生動物がすぐ近くにいる札幌という土地に誇りを持つことが必要。
<p>【学校等での推進】</p> <p>その他</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校だけでは先生の負担が大きい。 ・ 環境教育の専門家のほかに、環境に関連する現場で働く人や、地域の高齢者など経験豊富な人を巻き込む。 ・ 家庭（親）の役割が重要。しつけとして教えていくことや、親の行動を見て学ぶことが大きい。 ・ 通知表のようなもので、年度末や卒業時に、個人の環境に対する行動や理解度を評価。環境行動への動機づけのため、悪い評価は付けず褒めるようにする。 ・ 優しい人を育てる教育が必要。それにより人にも環境にも優しい社会になる。

ワークショップ時のまとめ【Hグループ】

